

## § 5-4. 情報マネジメント学科 / Dept. of Information Management

### 1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

#### ■教育研究上の目的

ITスキルやデータサイエンスに関する知識と技術及び経営工学に関する知識の修得とともに、情報の活用による組織の価値を高めるためのマネジメント手法を修得させる教育を行い、情報処理と情報分析に関する理論や手法を組織活動の場面に適用することができる行動力をもって、組織の知力の向上や組織の価値の創造に貢献できる人材の養成を目的とする。

#### ■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A 幅広い教養	リベラルアーツを旨とした知識と思考力	経営および情報に関する技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会全体の利益を追求する姿勢を修得することができる。	経営および情報に関する技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会全体の利益を追求する姿勢を修得することができるようになるための科目を配置する。
	B 専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	高度情報化とグローバル化に対応し、最適化手法、統計学、情報技術などを活用し、複雑な経営システムに関する諸問題を発見・分析・解決することができる。	高度情報化とグローバル化に対応し、最適化手法、統計学、情報技術などを活用し、複雑な経営システムに関する諸問題を発見・分析・解決することができるようになるための科目を配置する。
DP2	C ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	経営工学及びデータサイエンスについて、能動的かつ継続的に学習し、それを自らが興味をもつ経営における意思決定問題に活用して解決することができる。	経営工学及びデータサイエンスについて、能動的かつ継続的に学習し、それを自らが興味をもつ経営における意思決定問題に活用して解決することができるようになるための科目を配置する。
	D メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	社会の要求を解決するために経営工学及びデータサイエンスに関する情報を積極的に入手し、既修得の知識・技能と統合して活用することで、自らが立てた課題にそれらを適用して、その課題を解決する能力を修得することができる。	社会の要求を解決するために経営工学及びデータサイエンスに関する情報を積極的に入手し、既修得の知識・技能と統合して活用することで、自らが立てた課題にそれらを適用して、その課題を解決する能力を修得することができるようになるための科目を配置する。
DP3	E グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	異なる背景や文化を持つ人々と英語でコミュニケーションしながら協働作業する能力、グローバルリーダーシップ力を修得することができる。	異なる背景や文化を持つ人々と英語でコミュニケーションしながら協働作業する能力、グローバルリーダーシップ力を修得することができるようになるための科目を配置する。
	F 未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	取り組む課題や仕事に対して、技術面での解決にのみ拘るのではなく、コスト、品質、時間などを総合的に考慮し、持続可能なソリューションを提供することができる。	取り組む課題や仕事に対して、技術面での解決にのみ拘るのではなく、コスト、品質、時間などを総合的に考慮し、持続可能なソリューションを提供することができるようになるための科目を配置する。
DP4	G デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	数理の基礎知識を基に、デジタル社会で多量に取得できるデータをコンピュータを用いて処理・分析し、社会活動に応用する能力を修得することができる。	数理の基礎知識を基に、デジタル社会で多量に取得できるデータをコンピュータを用いて処理・分析し、社会活動に応用する能力を修得することができるようになるための科目を配置する。
	H 発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	自分の意見を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得することができる。	自分の意見を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得することができるようになるための科目を配置する。

## ■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

### 【学修方法】

1	PBL（課題解決型学習）に参画し、企業や行政が直面している問題を解決することを通じて実践的なスキルを養う。
2	学習ポートフォリオで日常的な学習を記録し、定期的に学修成果や目標達成度の振り返りを行う制度を運用する。
3	グローバルプログラムやインターンシップで異文化協働の経験を積み、社会とのつながりを深める。
4	経営工学及びデータサイエンスに関する知識を学び、AWSやPythonなどを用いてビッグデータを分析する実践的な学修を行う。

### 【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	プロジェクトや卒業研究の創造性や新規性、研究方法の適切性、データ分析の妥当性、目標の達成度、結果の実用性などによって総合的に評価する。

## ■学修領域（教育分野）

- ①経営工学
- ②データサイエンス